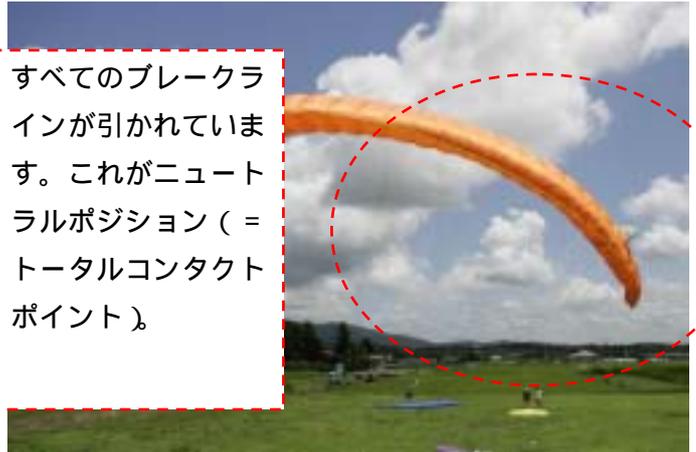


JPA登録スクールの指導要領はすべて『パラグライダー最新テクニックブック』、『ワークブック』に基づいています。そして、それを下地にし、セーフティトレーニング、上級者を対象としたセミナーを開催しています。その中では、教本には書かれていない言葉が使われています。ここで、その新しい言葉について説明をさせていただきます。

1. コンタクトポイント

コンタクトポイントとは、グライダーの一部が始めて引かれるところです。セーフティトレーニングでは「トータルコンタクトポイント」という言葉も使用します。トータルコンタクトポイント＝ニュートラルポジションとご理解ください。すべてのブレイクコードのラインが引かれるところです。

すべてのブレイクラインが引かれています。これがニュートラルポジション（＝トータルコンタクトポイント）。



「パラグライダー最新テクニックブック」ではブレイクコードは左記のようにグリップを持つようになっています。右記のようにグリップに手を通す場合は、グリップを手の甲より奥まで通してしまうと、いざというときにグリップから手を放せないということもありますので注意が必要です。

いずれにしても、テイクオフの頭上安定の際にグライダーを止めることができなければなりません。



左のように手に巻く方法をセーフティトレーニングでは使用します。もちろんデメリットを理解した上で使用しなければ危険ですが、手に巻きコンタクトポイントを上に上げることで、繊細なコントロールができます。

（メリット）

- ・ 微妙なコントロールがしやすい
- ・ コントロール域が広がる（大きなシューティングに対応できる）

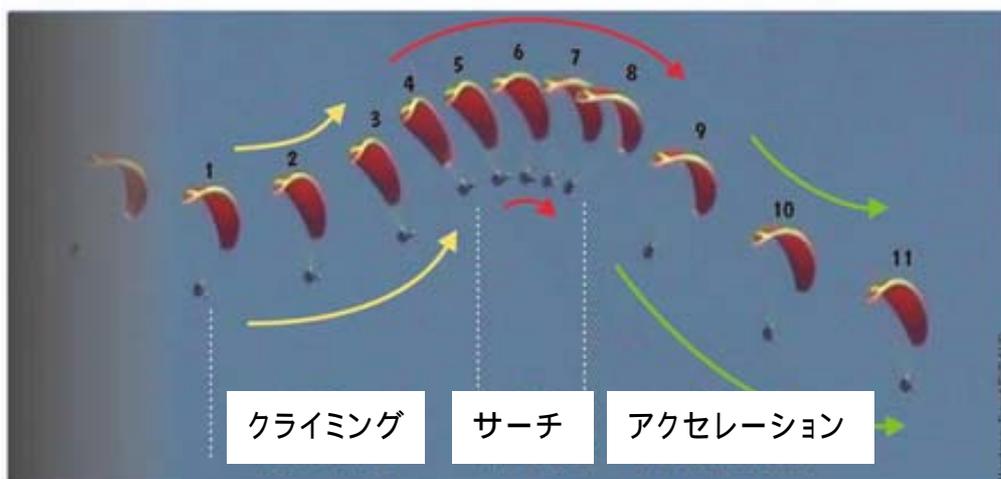


(デメリット)

- ・ テイクオフとフライトで持ち替える必要がある。(テイクオフ時にこのような持ち方をしていると立ち上がらない)
- ・ オーバーコントロールには注意が必要。
- ・ フライト中、同じポジションを継続すると疲れる。またはアクセルワークの際にも持ち替える必要がある。

*いずれにしても教本の内容を修了したあとの次のステップでのテクニックであることをご理解ください。

2. ピッチング



セーフティートレーニングではピッチングをわかりやすく3つのパートに分け、それぞれのパートに名前をつけ理解を深めています。

クライミング - パイロットが翼に対して振り子のように前方に振れるパート。

サーチ - パイロットに対して翼が前方に動くパート。セーフティートレーニングでは「振り子によるサーチ」と呼びます。

アクセレーション - サーチを終え、パイロットが翼を追いかけるパート。

大切なのはパートが変わるポイントを間違わずに、正確に操作をするということです。